

## 第9回夕張市高等学校対策委員会 地域キャンパス校視察報告

- 期 日 平成27年8月31日(月)
- 場 所 北海道平取高等学校
- 視察者 夕張市高等学校対策委員会  
団 長 小林信男(夕張市教育委員会教育長)  
副団長 小網敏男(夕張商工会議所専務理事)  
本田靖人(夕張市議会議員)  
白井啓裕(ゆうばり小学校校長)  
黒瀧善和(夕張地区連合会執行委員)  
後藤あゆみ(夕張高校教頭)※校長代理  
熊谷泰昌(夕張労働組合総連合事務局長)  
事務局 堀 靖樹(教育課主幹) 阿久澤直子(教育課主任)
- 対応者 北海道平取高等学校  
校長 毛内顯史 ・ 教頭 大木康弘 ・ 教諭 長尾勝恵
- 時 程 13:00~13:15 受付  
13:15~13:25 時程説明  
13:25~13:50 遠隔授業参観  
13:50~14:05 校舎案内  
14:05~15:05 教育懇談
- 教育懇談
  - 1 団長挨拶 小林団長
  - 2 挨拶・学校概況紹介 …… 平取高等学校毛内校長より挨拶・学校概況紹介
  - 3 事前質問への回答 …… 資料1により平取高等学校大木教頭より説明
  - 4 質疑応答

事務局	引き続き質疑応答に入りたいと思います。 ご質問等ありましたらお願いいたします。
委員	何点か質問させていただきたいのですが、兼務発令の部分で富川高校さ

んと兼務を発令しているとお聞きしましたが、この先生は日常的にはどちらの学校にいらっしゃるのかという点がひとつ、それから出張授業の部分で、資料では理科となっていますが、今日の数学の遠隔授業については、出張授業以外のものなのですか。

大木教頭 富川高校との兼職の部分ですが、基本的に音楽の先生は富川高校に勤務しております。

毎週、木曜日に本校の家庭科教諭が富川高校へ、向こうがこちらへと週1回交流で来ております。

それから2番目のご質問ですけれども遠隔授業についてですが、見ていただいたのはあくまでも文部科学省との研究で行っている数学の授業です。出張授業である理科の授業についてはまだ実施していませんし、これから9月の後半に予定しているのもので別物でございます。

委員 関連して、今日の授業の部分で日常的に複数の先生方が入っていらっしゃるのですね。

大木教頭 はい、そうです。

委員 今日と同じように他に2名入っていらっしゃる。

大木教頭 時間割によって1名になったり、あるいは、今日はたまたま全員あいていたので入っていたり、全部で3名付いてはいましたけれども、基本的に1名は必ず付いています。

それはなぜかという、机間巡視を指示された時にはこちらで机間巡視をいたします。あるいは、「だれだれさんのノートをちょっと見たいのだけ」となると、先ほどのビデオカメラを持ってそこの子のところに行ってノートを見ることになります。

委員 今日は忙しいなか、どうもありがとうございました。

質問ですが、平高だよりの134号の右下に「町より1年生に電子辞書が支給された」と書いてありますが、町の方から平取高校さんに経済的に支援があれば教えて下さい。

毛内校長 今回の視察については夕張市高等学校対策委員会がということですが、平取町には、平取高校振興支援協議会という組織がございます、この協議会は町教委が主管となりまして、町民の方々に組織されました。さらにふたつの小委員会に別れまして2年半かけて協議をいたしました。

ひとつは間口確保対策委員会、もうひとつは平取高校教育支援委員会で、間口

確保対策委員会ではどのようにして生徒数を確保するか、できるか、一方では平取高校の教育活動を支援する、どのような形で支援できるか、ふたつの観点で話しあっていただき、昨年の秋に案がまとまり、町長へ提出をしたところです。その後、今年、年明けの町議会で承認されて、27年度からの執行ということになりました。そのなかで検討していただいた支援策のひとつが電子辞書です。電子辞書についてであります。生徒の学習状況を整備するという観点から、私の方から入学祝い品という形で、電子辞書を生徒にプレゼントできないものかとお願ひしたところです。協議会のなかで答えていただきまして、今年度の新1年生、入学生からですが入学祝い品ということで電子辞書をプレゼントしていただけるようになりました、そういう経緯でございます。

委員

今日はありがとうございました。

私も実際、今聞こうと思っていたのは、今お聞かせいただいた電子辞書以外に町からの支援はどのようなものがあるのか、それがひとつお聞きしたいところです。

ふたつめは、今日遠隔授業を見せていただいたのですが、画面がひとつしかなかったのですが、画面を2画面、あるいは何画面にすることが可能ですか。

委員

関連してよろしいですか。授業を見て思ったのですが、向こう側の先生が授業をしていますよね、その時にたぶん向こうのモニターが横の方にあるのかなと思ひまして、視線がこちらを向かないでそちらを向いてしまうのでその辺も改善できるような形になると、子どもはもっとリアル感もって授業を受けられるのかなと、その辺も含めてお願ひします。

毛内校長

最初に、2番目の今日の遠隔授業についてお話しします。

まず画面は、2分割、もっとできます、確か小さいのをいくつも映るようにもできます。リモコンひとつでできます。うちのリモコンを動かして向こうのモニターに映る映像を変えることもできます。それからうちのリモコンで向こうのカメラを動かして、いま先生が映っているのをホワイトボードの方に移したり、その操作をこちらからすることができます。お互いこちらからも向こうからも、どちらもカメラを動かすこともできます。それからボタンひとつで画面分割もできます、今日はカメラがひとつしか有りませんでした、向こうにもカメラがありまして、先生が映っていました、それをボタンひとつで画面をふたつにして、向こうのモニターに映っている、うちの生徒たちの様子と先生の様子と見比べながらということもできます。実物投影機での映像の転送も技術的には可能です。礼文高校と有朋高校、同じように遠隔授業をやっているのですが、そこでの書道の授業ではipadを使っています。ipadを使ってそれが現高校の生徒のモニターに映るということもやっています。

委員 画面は1画面をふたつに分けた、例えば、スクリーンと電子黒板でふたつの画面を向こうから送るだけの回線の容量はありますか。

毛内校長 容量は分かりません。技術的には可能です。

委員 回線的には難しいかもしれない。

毛内校長 難しいかもしれない。別のセミナーを札幌で受けた時、東京で講演を行っているのを大きな液晶テレビのモニターで講師の方が映り、そしてスクリーンで向こうでやってるスクリーンを、そのまま映したり、モニターとスクリーンを両方見ながら講演を聞いたということがあったのですけれども、そういうこともできるし、もうひとつ違う講演では、講師の方が自分の横のスクリーンを見て発表している、お話ししているのを講師とスクリーンと両方映したモニターで1画面で遠隔で聞くという講演も経験有ります。

技術的にこの学校で使っているものについてはスクールネットの容量という部分だけで、それ以外は技術的にはなんでもできると思っていただいてもかまわないと思います。あと問題は回線の容量と予算ですね。よろしいですか。

では1点目の他の支援についてですが、まず通学費です。定期代については1万円まで自己負担、1万円を上回った場合は補助します。それから検定試験、模擬試験等につきましては年間の総枠はありますけど全額補助です。昨年度までは千円自己負担、千円を上回った分を補助、今年度から、先ほどお話しした委員会と協議していただいて、その補助を手厚くしていただき全額補助となりました。

それから今年度から新規で入学時の制服、ジャージ、上靴も補助、それから部活動、進路指導等にかかる経費として現金で80万支援していただいて、その80万は、ほとんどその進路関係でいろいろなものに使わせてもらっています。それから次も新規ですが見学旅行の費用を上限3万円まで補助しますよと。折角の見学旅行ですので、もし補助がいただけるのであれば、普段北海道に居て食べられないような、京都なら京都の食文化に触れるということも大切なことだなと思ひまして、お願いしたところ食費に限定することではなく、見学旅行の費用補助ということで上限3万円まで補助していただけることになりました。そのおかげで、今年の1年生から、いまのところ来年の見学旅行では何千円もするような京都の懐石料理をぜひとも食べさせてあげたいと思ひているところです。

その他町教委で持っているバスが有りまして、小学校、中学校の行事等で使っているバスなのですが、そのバスが空いているときには、うちの行事、進路行事、部活動等でも使わせていただけないか、ということをお願いしまして、昨年度までは進路行事に限定して年6回まで使わせていただいていたのですが、今年度からは部活動を含めて、空いている時は、いつでも何に使ってもいいですよと、回数も倍増しまして年間12回まで使わせていただけることになりました。

以上でございます。

委員 関連して、町の手厚い補助に関わらず、残念ながら今年の27年度の入学生は、地元からの進学率が33.3%ということで、まだその効果が表れていないということですか。

毛内校長 今年度、地元の進学率が下がったことについてきちんとした検証を行っているわけではありません。

委員 関連して、認識が違っていると困るので、補助の部分ですが、出身校、出身地関係なく、一律全員同じ額ですか。

毛内校長 そうです。

委員 それと、先ほどの見学旅行の3万円はひとり3万円ですか。

毛内校長 そうです。上限3万円です。

委員 もう一点、富川高校の方から音楽の先生に来ていただく、この方も兼務発令ですか。

毛内校長 もちろん兼務発令です。

委員 いわゆる交換ですね。

毛内校長 そうです。道立高校間連携については、他校の実践例では数学ひとりしかいない場合数学に来てもらってTTをやるとか、習熟度別授業をやるとか。そういうふうに行っている学校もあります。

委員 どうしても小規模校になりますと、定数の関係で芸術関係が被害を受ける、そういう形になってしまう、そうならざるを得ない。

毛内校長 センター・キャンパス校は道教委の推進室からの指定事業ですけれども、道立高校間連携は当該高校同士で計画書を出せばできます。それから年間通じてやらなくてはならないということはなく、4月、5月当初だけでやってそれで終わりでもいいのです。活用のしかたも色々工夫すれば道立高校間連携は有効な学校活性化の方策のひとつかなと思います。

委員 先日、道教委の方から、地域キャンパス校についての説明を受けた際に、いままでご説明いただいた、出張授業、遠隔授業、また生徒会の交流についても色々

お話しを聞いたのですが、そのなかで連携委員会を組織して、両校で連携についての話し合いをすると説明を受けたのですが、静内高校さんと平取高校さんの間での連携委員会をどの位の頻度で行われていて、どのようなことを話しあわれて来ましたでしょうか。

長尾教諭 今年度の状況ですが、あちらの方からお越しいただいて、それで教頭先生をはじめ今年度本校がお願いしたのは理科でしたので理科担当の先生、教務部長の先生、総勢4名お越しいただいて、打ち合わせを一度させていただきました。

それから遠隔システムを使って、遠隔授業が静内高校さんと本校で使用できるか、システムの確認を含めて2度ほど行いました。あとは理科担当の先生が打ち合わせに入っていくというような形になっています。

本校的には教頭先生と私と理科担当という形で入っています。

委員 出張授業や遠隔授業に関する打ち合わせがメインで、それ以外のことに関してはあまり話し合いの議題にはならないのでしょうか。

大木教頭 例えば、その連携委員会を実施する前に、本校で何をニーズとして静内高校に要望するのかをまとめなければいけませんので、先生方にいろいろ確認した上で本校ではこういうことを本年度やりたい、次年度に向けてこういう取組をしたいなど要望を連携委員会に上げて行く、お互いに共通認識を持って、またセンター校は学校に戻って体制的にできるのかどうなのか、あるいはどのような頻度で、例えば芸術鑑賞であっても次年度、年間の行事予定とのすりあわせがありますので、大体、お互いにどの時期だから、どの頃に連携委員会を持ちましょうという取り組みの進め方です。それも含めて実施するので、内容については毎年変わるということです。

委員 最後に一点だけ、部活動で連携した、例えば人数が足りないので合同のチームを作っただとか、合同練習をただとか、過去のキャンパス校間の連携のなかでやったことがあるのでしょうか。

大木教頭 平成20年度に導入された時に、平取高校のニーズを受けて、部活で人数が、バスケット部だったのですけど揃わない、大人数のなかで練習したい、でも、うちからはバスをチャーターして静内高校には行けないなどありましたので、センター校の静内高校の方が合同練習にはこちらから行きますか、という形でやっていました。

委員 静内さんが平取さんに来てやっただと。その辺の経費も連携委員会で決めるのですと道教委の説明だったのですけども。

大木教頭 本来的にはそうだと思います。ただ、この20年度は導入の時だったので、どういふ連携が出来るのか、白紙の状態でしたので、今回こんな連携をしましたと報告は道教委の方にはいたしましたけども、その時におそらく、今言ったようにそういうふうなものも含めて必ず連携委員会で話をして、お互いの共通認識のもとでやっていくのが良いであろうと改善されて来たのかなと思います。

事務局 以上で、質疑応答を終了させていただきます。

## 5 副団長挨拶 小網副団長

### 配布資料等一覧

#### 資料1 事前質問回答資料